

ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 210

2009年

9～10月号

行 事 案 内

9月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 9月13日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 少しは気温も下がっているでしょうか。冬の鳥にはまだ早いですが、常連と残っている夏鳥をじっくり探して名残りを惜しみましょう。
解 散 正午
担 当 松田、佐々木、小林(寿)、野口(紀)、北原、桑森

10月手賀沼探鳥会とカウント

期 日 10月11日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午前9時
案 内 秋の良い季節です。カモ達も帰ってきている頃でしょう。モズやカワセミや他の小鳥達も期待できそうです。ゆっくり注意して観察しましょう。
解 散 正午
担 当 佐々木、小林(寿)、野口(紀)、桑森、北原、松田

伊良湖岬タカの渡りを見る

期 日 10月3日(土)～4日(日)
観光バス 定員20名
費 用 22,000円
集 合 10月3日(土) 午前6時
我孫子駅北口ロータリー
宿 泊 休暇村「伊良湖」愛知県田原市
昼 食 両日自費
案 内 久しぶりの伊良湖です。近年、晴天率が下降気味ですが今年は大丈夫でしょう。一度見たら鷹柱の壮観は忘れられません。次から次へと頭上を越えていくサシバ、ハチクマには感動します。恋路ヶ浜から岬を巡ると灯台が良く似合うイソヒヨドリ、渡り途中のツバメ、ノビタキ、カラ類などに出会えます。海面すれすれに海峡を渡っていくヒヨドリの大きな群れを見るのも楽しみです。帰り路では干潟のシギ、チドリを探します。昼食は味噌煮込みうどんがお勧めです。
申 込 木村 稔 Tel: 04 - 7182 - 7958

手賀沼クリーン作戦

期 日 10月11日(日) 雨天中止
集 合 我孫子市役所 午後1時30分
案 内 手賀沼周辺のゴミを集めます。

清掃場所は柏市沼南側の探鳥ポイントを中心に行います。環境保全の一助です。多数の参加をお願い致します。

終了は午後 3 時ごろを予定しています。(軍手、ゴミ袋は事務局で用意いたします。火ばさみのある方はお持ちください。)

担 当 染谷と事務局

我孫子野鳥を守る会参加内容

(親水広場会場)

ブース出展:(パネル展示:鳥の採餌写真
など、紙芝居、庭に鳥を呼ぶ)

噴水前定点バードウォッチング

船上バードウォッチング

JBF の設営は 11 月 6 日(金)の午後から設営いたします。設営に参加する方は、午後 1 時 30 分に当会のメインテントにお集まりください。

第 9 回ジャパンバードフェスティバル(JBF)

期 日 11 月 7 日(土)、8 日(日)
会 場 千葉県立親水広場(水の館)、我孫子市鳥の博物館、アピスタ、その他
案 内 メイン会場は親水広場です。学生、NPO 団体、光学器械関係は親水広場会場(ブースは親水広場駐車場)の予定です。従って当会の会場は親水広場になります。参加内容については以下ようになります。他のイベントについては、広報あびこの 10 月 16 日号もしくは 11 月 1 日号をご覧ください。皆様のご協力をお願いします。

担 当 幹事全員と会員各位

9 月幹事会開催案内

日 時 9 月 13 日(日) 13:30~
場 所 アピスタ 第 5 学習室
議 題
JBF の行事及び担当者の確認
会報 211 号掲載記事について
報告事項
その他(議題を提出場合は事務局にご連絡ください。)

行 事 報 告

6 月手賀沼探鳥会とカウント

調査日時 2009.6.14 9:00~12:00
曇り 気温 23

<認めた鳥>カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、ダイサギ、アオサギ、コブハクチョウ、カルガモ、オオタカ、キジ、コアジサシ、キジバト、ホトトギス、カワセミ、コゲラ、ヒバリ、

ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、オオヨシキリ、セッカ、エナガ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 30 種

<探鳥班>大久保陸夫、栗田励、吉川民子、吉川洋、澤田冴子、浅井久、中野久夫、西昭子、野口隆也、松田幸保、諏訪哲夫、池田日

出男、小林秀美、村瀬和則、肥後邦彦、武藤康之、飯島博、田丸喜昭、田中悟、染谷良子、天野正臣、天野睦子、間野吉幸、高橋長久、類地佑子、宮下三禮、小玉文夫、佐藤弘美、六角昭男、石渡成紀、山本知子、岩田孝之、常盤孝義、吉田隆行（担当）小林寿美子、北原建朗、桑森亮 参加者 37名

<カウント班>木村稔、田中功、佐々木隆、染谷迪夫

調査日時 2009.6.14 9:00~11:55

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	11	1	12
カワウ	18	24	42
ゴイサギ	1	0	1
アマサギ	0	1	1
ダサギ	1	1	2
チュウサギ	0	1	1
コサギ	0	0	0
アオサギ	2	1	3
コバハチヨウ	15	15	30
カルガモ	15	2	17
チョウゲンボウ	1	0	1
オバン	1	3	4
コアジサシ	0	4	4
合計	65	53	118

<ビオトープ班>猪爪敏夫、谷山晴男、鈴木静治

全般：繁殖時期のせいか観察できる野鳥や少ない。葦・葛が繁茂。湖・池の水位高い。

水田：水が満ち、稲が青々と育っている。

ビオトープ：湿地の植物群落再生・沈水植物の生育実験中。草刈り有り。田植えの稲育つ。

通行人：暑くもなく絶好の散歩日和。散歩・走る・自転車等の人が多い。

7月手賀沼探鳥会とカウント

調査日時 2009.7.12 9:00~12:00

曇り 風弱 気温 29

<認めた鳥>カイツブリ、カワウ、ゴイサギ、

ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、コバハチヨウ、カルガモ、サシバ、キジ、バン、オオバン、コアジサシ、キジバト、カワセミ、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、オオヨシキリ、セッカ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 30種

<探鳥班>大久保陸夫、野口隆也、肥後邦彦、村瀬和則、諏訪哲夫、榎本右、橋本了次、栗田励、池田日出男、田中悟、西昭子、常盤孝義、松本勝英、松本葉子、川村美智子、川村美恵子、中野久夫、田丸喜昭、松田幸保、田中恒雄、宮下三禮、吉田隆行、六角昭男、武藤康之、類地佑子、天野正臣、天野睦子、松下勝子、上野竹子、飯島博、畠中暁美、金子幸子、染谷良子、小玉文夫、玉井修一郎、佐藤弘美、高橋長久、間野吉幸、桑森亮、野口紀子（担当）北原建郎 参加者 41名

<カウント班>木村稔、染谷迪夫、田中功
調査日時 2009.7.12 9:10~11:50

調査種	上沼	下沼	合計
カイツブリ	10	3	13
カワウ	23	51	74
ゴイサギ	7	0	7
アマサギ	0	0	0
ダサギ	3	3	6
チュウサギ	0	3	3
コサギ	1	0	1
アオサギ	1	1	2
コバハチヨウ	9	11	20
カルガモ	1	3	4
コガモ	0	0	0
チョウゲンボウ	0	0	0
バン	0	0	0
オバン	0	2	2
コアジサシ	0	4	4
合計	55	81	136

<ビオトープ班>猪爪敏夫、谷山晴男、鈴木静治

調査日時 2009.7.12 9:30~11:00

全般：葛・蒲が繁茂し野鳥観察し難く、野鳥の種類・数少ない。湖・池水位高い。

水田: 稲がよく育ち出穂期が近いと思われる。
ピオトープ: 「湿地の植物群落再生」実施中。

体験水田 4 面の稲が生育。

通行人: 散歩、ランニング、自転車の人多数。

舗道が熱くなり散歩犬の口呼吸頻繁。

笹川・印旛沼探鳥会

6月28日

笹川・印旛沼探鳥日誌

石渡成紀

前日は梅雨の晴れ間の真夏日、今日は一転して曇り、暑くなく絶好の探鳥日和だが、予報では午後から雨になるという。何とか天気が持つてほしいと祈りながら総勢 22 名、6 台の車に分乗して一路笹川に向けて我孫子を出発した。

1 時間半ほど走った最初の休憩地、香取のセブンイレブンで思わぬ歓迎を受けました。

それは、昼食のおにぎりを買い込んで出発しようとした時です。隣地にいた 2 羽のコチドリがちょこちょこ歩き回り、笛を鳴らしたような優しい声（ピョオピョ、ピョオピョ？）で迎えてくれたのです。

幸先の良い出迎えに気分を良くして更に 30 分程走り、最初の目的地笹川には 10 時頃到着しました。ここは利根川沿いにある葦原です。実は、一昨年の探鳥会でもここに来たことがあり、今回も何か新しい発見ができるか、楽しみにしていました。

堤防に上がってみると、思ったとおり一面が初夏の青々とした葦原でおおわれ、数種類の鳥が囀り合っていました。鳴き声が騒々しい割にはなかなか姿を見せてくれません。誰かが「あ、オオセッカ」と叫びました。少し離れたところで円を描くように舞い上がり鳴いているオオセッカを確認できました。目の前の枯れた葦には頭の黒いコジュリンも止まってくれました。遠くの葦にはオオヨシキリも赤い口の中を空に向けて鳴いています。そのうち空中か

ら舞い降りてきたセッカやコヨシキリも観察でき、ウグイスもどこからか鳴き声が聞こえてきました。こちら目も慣れてきたのか容易に鳥を探ることができるようになり、じっくり観察していると、どなたかが「ヨシゴイがいるよー」と声をかけてくれました。皆の足が一斉にそちらに向かいました。目の前の枯れた葦の茎にヨシゴイが悠然と構えて止まっています。じっと前を見つめ何かを狙っているようですが、時たま長い嘴を天に向け体を伸ばし葦に擬態しているようなポーズをとっています。

ヨシゴイを見るのは初めてです。今日の新しい発見でした。これで今日の目的は果たせたと内心自己満足です。

ここで昼食を採った後、次の目的地印旛沼に向かい 1 時頃到着しました。

沼の護岸に上った時です。先着の探鳥グループが一斉に歓声を上げ、飛んでくる一羽の鳥に視線を向けています。やがてその鳥は眼前の芦原に潜り込みました。はっきりとは確認できませんでしたがかなり大きな鳥のように見えました。聞くところによると、この鳥はサギ科の「サンカノゴイ」という鳥だそうです。印旛沼には時折出現し、希少種だそうです。こういう名前の鳥がいるということも今回初めて知りました。葦原に潜んだ後もみんな目を離さず、もう一度目の前に姿を見せてほしいと待ち望みましたが最後まで現れませんでした。しかし、ここではオオヨシキリが大きな声で囀り、上空にはクロハラアジサシが数羽群れて飛び交うのも観察できました。またここでも、一番の見ものはヨシゴイでした。笹川では葦に止まる雄姿を観察しましたが、ここ印旛沼では葦原を飛行するのを見ることができました。緑の葦原を背景に全体が淡黄白色で両翼の先端部分が黒いヨシゴイがゆっくりと羽ばたきながら低空飛行する姿は幻想的でもあり見ごたえがありました。

ここで観察すること約 40 分、ポツリポツリと雨が降り始めました。少し早い为本日の探鳥会はその目的を充分果たし 2 時

前に帰路に着きました。

最後になりましたが、安全運転で車を提供し、親切丁寧に野鳥の指導をして下さった間野会長、車内で楽しく過ごさせていだいた宮下さん、山本さん、今日は本当にありがとうございました。

【幹事報告】

<認めた鳥> カワウ、サンカノゴイ、ヨシゴイ、ゴイサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、トビ、チョウゲンボウ、キジ、コチドリ、コアジサシ、クロハラアジサシ、キジバト、カッコウ、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、オオセッカ、コヨシキリ、オオヨシキリ、セッカ、コジュリン、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計 31 種

<参加者> 田丸喜昭、田丸メリールイス、西巻実、桑森亮、中野久夫、間野吉幸、大久保陸夫、小玉文夫、松本勝英、天野睦子、猪爪敏夫、古賀嗣朗、山住良子、山本貞江、渡辺成、吉田隆行、野口隆也、石渡成紀、松下勝子、宮下三禮、類地佑子、北原建郎 計 22 名

映 写 会

7月25日

諏訪哲夫

恒例の映写会を水の館 3 階の研修室で開催した。17 名の方から 500 点の写真と 1 点のビデオ、1 点のパワーポイントによる説明の応募があった。30 名の会員が鑑賞した。

今年もニュージーランド、シドニー、アメリカ(コロラド州、ユタ州)と海外の野鳥の写真が沢山発表された。国内も北海道から沖縄(石垣島、与那国島)までの広範囲の野鳥を鑑賞できた。

今回は 1 人上限 40 点ということで応募していただいたが応募者が多かったので時間が足らなくなり間野会長のパワーポイントによる「手賀沼周辺で観察されたタカ」の説明ができなくなるという申し訳ない事態になってしまった。

上映希望者は今後も増えることが予想されるので来年からは 1 人あたりの点数を減らして対応する必要があると思う。

<発表応募者と主な内容>

桑森亮: イワヒバリ、ヒクイナ、ベニマシコ
他

安野昌彦: ニュージーランドの風景と鳥達

井上正: シドニーの鳥達他

野口隆也: ミヤコドリ、オオルリ、サンコウ
チョウ他

古賀嗣朗: 石垣島と与那国島の鳥達他

吉田隆行: ベニマシコ、サンカノゴイ、ウス
ハイロチュウヒ他

柴本三弘: アカショウビンとコマドリ

西巻実: シベリヤオオハシシギ、ホオジロカ
ンムリヅル、越冬トンボ他

村上稔: アメリカ(コロラド州、ユタ州)の
鳥達

大久保陸夫: イカル、アカショウビン、コル
リ他

池田日出男: ノゴマ、オジロワシ、ホシガラ
ス他

中野久夫: 餌を啜えた鳥達

田中功: サンカノゴイ、ホシガラス、ヨシゴ
イ他

武藤康之: キジ、チョウゲンボウ、カワセミ
他

諏訪哲夫: コマドリ、ノジコ、ギンザンマシ
コ他

松田幸保: ビデオ(アカショウビンとヤマセ
ミ)

間野吉幸: パワーポイント(手賀沼周辺で観
察されたタカ)

<参加者> 武藤康之、桑森亮、井上正、古賀
嗣朗、田中功、中野久夫、安野昌彦、柴本三
弘、吉田隆行、大久保陸夫、村上稔、野口隆
也、渡辺成、首藤佑吉、田中恒雄、西巻実、
松田幸保、北原建郎、染谷迪夫、池田日出男、
佐々木隆、間野吉幸、松本勝英、松本葉子、
小玉文夫、鈴木静治、玉井修一郎、天野正臣、
天野睦子、諏訪哲夫 計 30 名

納涼会

7月25日

北原建郎・染谷迪夫

7月25日(土) 映写会の後、恒例の納涼会が開催されました。梅雨明け宣言が7月17日にありましたが、天気が安定せずうっとうしい蒸し暑い日でしたが、ビールなど飲むには良い日だったかも知れません。場所は当会ではおなじみの我孫子北口の「庄や」でした。

料理とお酒を楽しみ、鳥や、撮影、各位の蒔蓄など話題が豊富で、午後5時30分から7時45分までアツという間の時間でした。店主の厚意で、大杯に注いだ冷えた日本酒を各人が飲み継いだ企画で宴は一層盛り上がりました。

参加の各位が暑い夏を乗り切れるよう、又来年も楽しい納涼会が催されるよう祈りつつ報告と致します。

<参加者>小玉文夫、間野吉幸、村上稔、吉田隆行、諏訪哲夫、大久保陸夫、松田幸保、猪爪敏夫、松本勝英、池田日出男、桑森亮、田中恒雄、田丸喜昭、中野久夫、田中功、鈴木静治、首藤佑吉、野口隆也、井上正、渡辺成、染谷迪夫、北原建郎 計22名

ホタルの夕べ

8月2日

木村稔・染谷迪夫

日時 平成21年8月2日(日) 曇

気温 25 湿度(高)

集合 東我孫子駅前午後7時

(観察期間午後7時20分～8時20分)

観察場所 我孫子市岡発戸・都部谷津ミュージアム(主にホタル・アカガエルの里付近)

<参加者> 間野吉幸、松田幸保、松田伸幸、松本勝英、松本葉子、金子幸子、川越久枝、間藤恵子、川村美恵子、池田日出男、猪爪敏夫、清水多恵子、井上正、井上智子、百合岡隆史、百合岡麻衣子、百合岡萌子、栗田欣、浅井久、西昭子、佐藤菜々美、高橋真優花、

高橋妙子、高橋和子、高橋長久、木村進、木村伸子、帆苅美津子、山岸国彦、山岸順子、長崎正晴、海上知恵美、畠中暁美、谷口勝一、谷口沙江、大谷正夫、大谷正亮、大谷順子、窪田 薫、窪田一乃、佐藤芳美、岡野武雄、岡野孝子、中根文世、中根実希、山田哲生、山田とし子、田村和平、他1名(担当) 木村稔、染谷迪夫 計51名

報告

認められたヘイケボタルの数183頭。当日は夕方から雨の予想で蒸し暑い夜だったが幸い観賞中雨がなかった。観賞が終わった午後8時半過ぎにポツリと来た位で、ホタルが良く出てくれた。結果は上記の通りだった。数年前から、我孫子市手賀沼課、我孫子市岡発戸・都部谷津ミュージアムの会、あびこ谷津学校友の会の方々谷津ミュージアムの整備・保全を手がけ、特にホタル・アカガエルの里附近を中心に整備、保全をしていることが、一昨年、昨年、今年と3桁のホタルが観察された原因の一つとも考えられ、感謝したい。夏の夜草むら、木立のかげ、田んぼ、湿地、ヨシ原などに幻想的なホタルの青い光を見ることは、郷愁を誘い、楽しいひと時を過ごさせてくれる。参加者の皆さんは、「まるで青いイルミネーションのようだ」などと楽しんでくれたようである。来年も3桁のホタルが観賞できるよう期待したい。他の幾つかグループもホタル観賞に訪れていたようであった。

なお、この行事は、我孫子野鳥を守る会と鳥博友の会の共催で行われました。

(記: 染谷迪夫)

7月幹事会報告

日時 7月12日(日)午後1時30分

場所 水の館3F 研修室

議題

1. J B F の参加内容の検討と担当について

<内容>

- ・紙芝居 「スズメさんの自然観察」
 - ・庭に鳥を呼ぶ 今年はパネル展示と連携いたします。
 - ・パネル展示 鳥の採餌写真のパネルを作成。会員から公募した鳥の採餌写真をパネルを大きくするなど工夫する。
 - ・噴水前定点バードウォッチング
 - ・船上バードウォッチング
- <担当>
- ・事務局が提案し、大綱提案どうり了承された。 9月の幹事会で最終決定と確認。

2. ほーほーどり 210号記載記事について
- ・小玉副会長、松本幹事が資料にそって提案、大綱、了承された。
 - ・手賀沼学会の報告を記載。
 - ・10月開催の手賀沼流域フォーラムはお知らせの中で紹介。

3. 検討事項
- ・幹事 2名の増員を決定、会長に選任を依頼。

4. 報告事項
- ・JBF実行委員会 開催日は11月7日(土)～8日(日)に決定。
 - ・第1四半期会計報告 会計担当の北原幹事が資料にそって報告、了承された。
 - ・手賀沼学会への出展 「手賀沼ビオトープの鳥たち」のパネル展示。
 - ・美手連関係の報告を間野会長が資料に沿って報告。又手賀沼流域フォーラムの参加と「親子探鳥会」の実施について提案し了承された。
 - ・美手連の手賀沼基金(4万円)の支援公募に対し、紙芝居作成活動を応募。

5. その他
- ・小玉副会長が当会HP担当の後継者育成の観点から、HP作成勉強会の開催を紹介。当面は以下の通り。
開催日時 7月14日(火)、28日(火)15:00～17:00、けやきプラザ10F B会議室。今後も継続する。

平成 21 年度下期行事予定

(再掲)

期 日	平成 21 年度下期行事
10/03(土) 04(日)	伊良湖岬タカの渡り探鳥会
10/11(日)	Am 手賀沼定例探鳥会 Pm 手賀沼クリーン作戦
11/06(金)	JBF 設営
11/07(土) 08(日)	ジャパノバードフェスティバル(JBF)
11/15(日)	手賀沼定例探鳥会、幹事会
11/29(日)	東庄県民の森・江戸崎探鳥会
12/06(日)	手賀沼ふれあい清掃
12/13(日)	手賀沼定例探鳥会
12/20(日)	芋煮会
12/27(日)	澗沼探鳥会
01/03(日)	波崎・北浦探鳥会
01/10(日)	手賀沼定例探鳥会、幹事会
01/17(日)	銚子カモメ探鳥会
01/31(日)	市民手賀沼探鳥会
02/07(日)	井頭公園探鳥会
02/14(日)	手賀沼定例探鳥会
02/20(土) 21(日)	清里・野辺山探鳥会
03/06(土) 07(日)	市民活動フェア
03/14(日)	手賀沼定例探鳥会、幹事会
03/21(日)	北本自然公園探鳥会

特 別 寄 稿

「北海道鳥見紀行 (ギンザンマシコを訪ねて)」

諏訪哲夫

6月20日から23日までY社のツアーで大雪・サロベツ・天売に行ってきました。今回のツアー参加者は26名で半数が女性でした。何回かあちこちで会ったことがあるIさんが参加していました。
羽田発10:35のJAL1107便で旭川に着くと二人の講師(Nさん、Iさん)が出迎えてくれました。

まずバスで旭岳に向かいました。今回のバスはずっと1人掛けで隣に観察用具を置いたので楽でした。ロープウェイ山頂駅は高度1,600メートルの所にあり、まだ雪が沢山残っていました。ロープウェイから眺める大雪山系の景色は素晴らしかったです。今年は例年より雪が多いということで持参した簡易アイゼンをつけて歩き出しましたが使い慣れていないのですぐ外れてしまい、なしで歩きましたが支障はありませんでした。ギンザンマシコのポイントは第3展望台ということで20分ほど歩くと第3展望台に到着しました。着いて間もなく雨が降り出しました。17:00のロープウェイで下山する予定ということで雨の中傘をさしてお目当てのギンザンマシコが現れるをひたすら待ちました。待っている間に近くにノゴマが出たりしましたがそちらに行っている間にギンザンマシコが出たら困るので動かずにただ待ち続けました。しかしいくら待っても現れず、引き上げ時間は迫ってくるし、寒いのでトイレに行きたいしで、もう駄目かと思った引き上げ時間の5分前に出たという声が上がって慌ててそちらに駆けよりました。ペアーでハイマツの上に止まっていました。出ていたのはほんのわずかの時間でしたがなんとか数枚写真も撮ることができました。お目当ての鳥が出たので全員大歓声でした。なにしろ今回のツアーでお目当てのナンバー1なので3時間雨の中を待っていた甲斐がありました。

ギンザンマシコは数年前に首藤さんに企画していただき有志で出かけた北海道鳥見撮り旅行の時に知床で猪爪さんだけが見て残念だった記憶があり、それ以来憧れの鳥だったので喜びもひとしおでした。

この後白金温泉のホテルパークヒルズに向かうバスの中はギンザンマシコが見れたので和やかな雰囲気でした。

ホテルパークヒルズは結構きれいなホテルでY社がツアーで利用するホテルでは良い方でした。この日の同室は広島から参加したYさんで言葉遣いの丁寧な方でした。

2日目(21日)は04:30から宿の付近を探鳥しました。探鳥開始の頃には雨も上がり、少し歩くとニュウナイスズメが現れ、近くの沢ではイワツバメが乱舞し、オオルリ、ヒガ

ラ、ミソサザイ、キビタキ、ウグイスなど観察できました。ここの主役はアオバトでした。アオバトは大磯では見慣れています但本来の生息地で見るのは2度目です。

朝食の後朱鞠内湖に向かいました。この湖はダム湖だそうですが相当大きい湖でした。まずコムクドリに出会い、続いてペアーのヤマゲラをゲットしました。ヤマゲラは北海道にきたら是非出会いたいといわれている鳥ですが出会いを予想していなかったのなんだか得をした気分になりました。この後キビタキ、アマツバメ、ツツドリを見ることができました。ツツドリはあけぼの山では何度も見っていますが山で見るのは初めてでした。ここのレストランで昼食を食べた後少し時間があつたのでヤマゲラのポイントに戻ってヤマゲラを探しましたが見つかりませんでした。

昼食後幌延原生花園に向かいました。ここは広くはサロベツ原生花園の一部ということでした。ここではツメナガセキレイ(キマユツメナガセキレイ)を見れるということで期待していたら講師のIさんから営巣中の固体がいる場所を教えてくれたのでそこに行くこと遊歩道に出ていました。どうも巣に入りたいがわれわれがいるので警戒して入らない様子なので写真を撮ってすぐ離れました。ここではノビタキや電線に止まったカッコウを見ることができました。この後アカエリカイツブリがいるという小さな沼に寄り、ペアーで巣作りをしているアカエリカイツブリを見ることができました。

この日の宿は豊富温泉のニュー温泉閣ホテルで小さな旅館でした。ここの温泉は皮膚病に効くといわれていて、石油の臭いがすると聞いていましたが別に感じませんでした。この日の同室は埼玉から来たYさんと福岡から参加のMさんで鳥談義で話が弾みました。

3日目(22日)は04:30にサロベツ原生花園に向かいました。遅くなると霞んできて鳥が見難くなるということでした。歩き始めるとすぐマキノセンニュウを見ることができました。続いてシマアオジも見ることができました。シマアオジは以前岩見沢の友人とウトナイ湖に行った時にレンジャーに案内してもらって以来です。シマアオジは近

年急激に数が減ってきていると聞きました。ビジターセンターに到着するとすぐオオジシギが近くの看板に止まってくれているみなさん盛んにシャッターを切っていました。園内の木道を1周するとわりと近くにシマアオジが出てくれました。雨が強くなってきたのでセンターに戻り雨宿りをしていたらオオジシギがまた近くにやってきて道路標識に止まり、大サービスをしてくれました。宿に戻り朝食を食べた後、09:30に出発し、羽幌港に向かいました。途中パンケ沼に立ち寄りしましたがここではコヨシキリが沢山鳴いていました。沼の上をオジロワシが飛んでゆくのを見ることができました。羽幌港発14:00の便で天売島に向かいました。海上はわりと穏やかで左右の海鳥を見ながら90分で天売島に到着しました。天売島は周囲12キロの小島で人口は400人弱だそうです。宿に荷物を置き直ぐ宿の主人が運転するバスでウトウの営巣ポイントに向かいました。無数の巣穴が地面に掘られていてここに夕方薄暗くなると何十万というウトウが餌を口一杯に咥えて戻ってくると宿の主人が教えてくれました。展望台の上から崖下の岩にウミガラスが見えるかもしれないということで探しましたが見つかりませんでした。ウミガラスと思ったのはデコイで以前道東に行った時に霧多布でエトピリカとデコイを間違えて大騒ぎをしたのを思い出しました。夕食もそこそこの夜のウトウの帰巣ウォッチングに出かけました。先ほどのポイントに着くと早くもウトウの帰巣が始まっています。このウトウの帰巣風景はただ壮観としか言いようがありませんでした。何十万のウトウが雛が待っている巣穴に餌を咥えて戻ってくるわけですがそれを待ち構えているオオセグロカモメとウミネコが咥えている魚を横取りしようと襲い掛かる様子は迫力満点でした。襲い掛かるのはカモメ達だけではなく餌を取られたかして持っていないウトウが仲間の餌を取ろうと襲い掛かりバトルを繰り広げるのを極間近で見ることができて興奮しました。帰巣時ウトウは時速60キロで戻ってくるそうです。そしてこの風景はここでしか見ることはできないそうです。帰りに宇宙館に寄って館長でプロ写真家の寺沢さんの講義を30分ほど聞きました。

寺沢さんは話が上手で天売の鳥達の様子がよく判り勉強になりました。この日の宿は「島の宿大ー」で非常に家族的な宿でした。この日の同室はYさんでした。4日目(23日)チャーター船で早朝探鳥に出ました。後で聞くと波があるので船は出せないと言われたようでしたが予定より少し遅れて、引き返すこともあるという条件で船が出ました。昨日ウトウの帰巣状況を見た場所位まで島の周りを回って行き、船の中からじっくり海鳥を観察しました。船が出てすぐウミスズメの群れが現れ、ウトウ、ケイマフリも続いて見ることが出来ました。折り返し地点の近くでウミガラスが現れ、船内が騒然としました。しかも近くに出たので写真も撮ることができました。昨晚話を聞いた寺沢さんも乗っていてこんなに近くにウミガラスが出るのは珍しいと話してくれました。ウミガラスはここでは1羽が確認されているだけということでした。船上探鳥は上々の首尾でした。朝食後10:25の羽幌沿海フェリーの便で羽幌に渡りました。羽幌から利根別自然林に向かう途中道の駅で昼食を食べました。海鮮料理が苦手な私ですがこのホタテ弁当は美味しかったです。利根別自然林は岩見沢にあり、14:00に到着して探鳥をしました。ここではエゾフクロウや運が良ければクマゲラに出会えるということでしたがエゾフクロウの巣穴を見ただけでクマゲラも出ませんでした。千歳空港には17:30に到着しました。空港では頼まれていた話題の生キャラメルをお土産に買いました。空港で二人の講師に別れ、みなさんそれぞれの便で帰路に着きました。JALの538便は予定通りに20:35に羽田に到着しました。北海道の雄大な大自然を見ながらの探鳥旅行はとても素晴らしかったです。今回のツアーでは78種という多くの鳥達に出会い、初認の鳥も6種見ることができて大満足でした。100点といたいところですが梅雨は無いといわれている北海道で天候があまり良くなかったので2点減点して98点というところだったと思います。二人のY社の講師は現地の鳥事情に非常に詳しく確実にポイントを押さえてくれて無駄の無い、充実したツ

アーに仕立ててくれました。
また何時の日かに北海道の鳥達に出会う旅に出かけたいと思います。

「北海道の自然を楽しむ」

池田日出男

6月25日から7月2日までレンタカーによる道東旅行を行いました。今回は、探鳥だけでなく北海道の自然のすべてを楽しむことを目標としました。ここでは、特に印象場面をいくつか選んで書きます。

2日目、釧路湿原東側にあるロッジに泊り、早朝に釧路湿原を見下ろすサルルン展望台に登りました。ここは標高80mの小高い丘であるが、眺めはすばらしい。眼下にサルルン沼が見え、その先にはるか遠くにまで釧路湿原が広がっている。湿原の広さは山手線ぐらいというから、その広さは分かっていたかと思う。再び、サルルン沼に目を移すと、眼下にアオサギが飛び、真中の小島に着陸した。沼の岸の方に目を移すとエゾシカがワタスゲの群落のなかでゆっくりと歩いている。餌を探しているのだろうか。少し離れて、さらに2頭のエゾシカ、内1頭は少し小さいので親子らしい。名残り惜しいが、展望台を離れて帰途に付く。途中、鳥の音がにぎやかだ。何かいるのかと探したが、葉がかなり茂っているので、鳥はなかなか見つからない。そのうち木の幹に動く影あり、雄のアカゲラが姿を現わした。展望台を降り、塘路湖畔を散策すると、コヨシキリ、ニューナイスズメ、ノビタキ、トビなどが見られた。後で知ったことだが、ロッジシラルトロは釧路川のカヌー下りを得意としている宿で、早朝にカヌーに乗ると鳥や動物が真近で見られるとのことであった。その機会を逃して残念！

4日目、屈斜路湖近くのペンションに泊った。宿のオーナーに屈斜路湖から釧路川の源流へ下ると云うカヌーのツアーを薦められたので、乗ってみることにした。我々夫婦にガイドが一人付いてくれたので安心です。屈斜路湖の岸边からカヌーを漕ぎ出し、しばらくは湖面を進む。水面は鏡のように穏やかで、

対岸の藻琴山が霞んで見えて良い景色です。10羽ぐらいのカワアイサの群れがすぐ側を泳いでいます。やがて、カヌーは釧路川の入り口へと入ると、急に川幅が狭くなった。おおよそ10m程度か。釣り人が糸を垂れているのでカヌーはその間を縫って進む。川岸の岩の上で5、6羽のカワアイサが羽を休めている。やがて、川幅が少し広がるところで、岸辺の木にカワセミが留まっている。急いでシャッターを切ったが、カヌーの動きはゆったりしているようで意外と早いので、残念ながらぶれた写真になってしまっていて残念！さらに進むと、今度はヤマセミが上流から飛び出し、流れに沿って下流に飛んで行った。川岸近くの葦の上ではノビタキが飛び交っていた。やがて、カヌーは流れの早い瀬を通り終点に着いた。距離8km、2時間と短い旅でしたが、心地よいひとときだった。

午後は、小清水原生花園に移動し、探鳥をし、また花を鑑賞した。先ず、探鳥の方に取掛かることにして、原生花園のはずれの観光客のいないところで鳥を探した。これがうまく当たって、海岸沿いの灌木の上を鳥が行き来しているのを見つけた。先ずはノビタキの雄、そして雌だ。写真をパチパチ撮っていると、すぐ近くのハマナスの葉っぱの上にまた違う鳥が現われた。喉に真っ赤な印を付けている。ノゴマだ。大きな口を開けて長い間囀っており、長い間その姿を鑑賞することができた。その他にホオアカ、ヒバリが見られ、カメラの方もフル回転であった。次いで、観光客のいる中心部に移り、花を鑑賞した。エゾスカシユリ、エゾゼンテイカ、ハマナスが咲き乱れており、丁度良い時期に当たったようで、こちらもラッキーでした。

5日目の早朝、網走の人にガイドを頼んで濤沸湖のツアーに行った。網走の旅館を出発すると、まず車は網走湖に沿って走る。湖岸には、アオサギが沢山見られた。アオサギは、夏の間は滞在し秋には南へ下るといふ。やがて、車はオホーツク海を左に見て小清水原生花園の方に走り、濤沸湖の西端に位置する白鳥公園に到着した。冬には白鳥が集結するらしいが、今はいない。朝霧がもやっているが、ウミウ、キンクロハジロ、トビなどが沢山見えた。その時、ガイドさんが霧の向こうに面白いものを見つけた。2羽のオジロワシ(お

そらく、つがい)が湖の砂州の上に並んで座っている。本当は立っているのだが、姿勢がずんぐりしているので、そのように見えるのです。霧の中で、仲睦まじくいつまでも佇んでおり、心温まる風景であった。

次いで、広大な畑に沿ってジャガイモ街道を通過して、濤沸湖の東の端にある「平和橋」に到着しました。オカヨシガモなどがいるというが、今日は見えない。代わりに、湖の浅瀬に10羽ぐらいのアオサギの集団が見られた。湖面からは、カワセミがホバリングしながら上がってくるのが見えた。餌を探しているのであろうか。ふと、湖岸の林を見ると、大きなミズナラの木のてっぺんにオジロワシが留まって、こちらを見下ろしていた。少しずつ近寄りながら写真を撮ったが、近寄るまで逃げずに留まっており、ラッキーだった。大きな目と曲がった黄色い嘴が印象的で、一目でオジロワシファンとなる。ここで一句「尾白鷺逢瀬の時も怖い目か」。

次に、再び観光スポットの小清水原生花園に行く。ここでは、オオマルハナバチについて講義を聞いた。もともとこの辺には在来種のエゾオオマルハナバチというハチがスカシユリなどの蜜を採っていたものであるが、最近では外来種のセイヨウオオマルハナバチが優勢になってしまったと云う。この外来種は、トマト農家がトマト花の受粉のために輸入したものが広まってしまったものだとのことである。探してみると、お尻が白いセイヨウオオマルハナバチは沢山見つけたが、お尻が茶色のエゾオオマルハナバチはとう

とう見つからなかった。セイヨウオオマルハナバチは、クマバチぐらいの大きさのハチで全身が毛で覆われ、お尻に白いパンツを穿いているように見え、なかなか可愛いらしい。

朝食後、サロマ湖のワッカ原生花園に向いました。ワッカ原生花園は、広大な面積であるが、車の乗り入れはできないようになっており、自転車での探鳥となりました。鳥にとっては最適な環境といえるのだが、残念ながら期待していたシマアオジを見ることはできなかった。最近シマアオジは非常に少なくなっているとのことで、環境問題がこんなところにも及んでいるのかと残念に思う。

ここでは、ノビタキ、ノゴマ、オオジュリン、カワラヒワ、ヒバリなどが数多く見られた。花の方は、ハマナス、スカシユリに加えて、ムシャリンドウがありました。サロマ湖の後は、数日かけて風蓮湖、春国岱、納沙布岬、霧多布湿原を回り、釧路経由で帰京しました。途中、春国岱ではエゾシカ、キタキツネ、タンチョウズルが真近かに見られ、根室の北方原生花園ではヒメオウギアヤメの群落や道産子の放牧があり、また「根室市歴史と自然の資料館」で見たシマフクロウの剥製は印象的であった。今回は生きたシマフクロウが見たいと思う。今回の道東旅行は、計画通りには行かないところもあったが、鳥、花、食べ物と色々収穫があり、新しい目標が見つかったことも収穫であった。

鳥 だ よ り

- 05.23 [布佐平和台] 雫(1)電線に留まる
鈴木静治
- 05.27 [大井新田先手賀沼] オオシロ(2)
14:38、葦原で鳴いていた
飯泉仁・久美子
- 05.27 [片山] 牝(3) 13:01~13:46、

- 手賀の丘公園内で観察 飯泉仁・久美子
- 05.27 [片山] 牝(1) 13:01~13:46、
手賀の丘公園内で観察 飯泉仁・久美子
- 05.27 [片山新田先手賀沼] セッカ(1)
13:58、葦原で鳴いていた
飯泉仁・久美子

- 05.27 [ゆうゆう公園] 朴柝^ス(1) 河川敷で鳴き声 中野久夫
- 05.27 [ゆうゆう公園] 冪^リ(4) 柝^原で囀り 中野久夫
- 05.28 [下沼田] 冪^ウ(1) 田の道端の棒に留まる 鈴木静治
- 05.28 [千間橋] ヲ^イ(1) 川岸の葦に飛び込む 鈴木静治
- 05.28 [千間橋] 冪^リ(3) 田の上を飛びまわる 鈴木静治
- 05.28 [北新田] 加^ウ(1) 河川敷で鳴き声 中野久夫
- 05.29 [江蔵地] 比^レ(2) 上空の比^レを1羽の加^スが攻撃する 鈴木静治
- 05.29 [江蔵地] 加^ウ(1) 林の方から鳴き声が聞こえる 鈴木静治
- 05.31 [東中新宿] 冪^リ(3) 9:00、鳴きながら上空を通過 飯泉仁
- 05.31 [天王台2丁目] 朴柝^ス(1) 鳴き声 桑森亮
- 05.31 [古戸] 加^ウ(1) 木の頂より啼く 鈴木静治
- 06.01 [布瀬鳥見神社] サ^バ(1) 14:13、電柱の天辺で餌を食べた後、営巣場所と思われる木の中に入った 飯泉仁・久美子
- 06.01 [北新田] 冪^リ(1) 越流堤横^ヲ原で鳴き声 中野久夫
- 06.02 [若白毛] 朴柝^ス(1) 声 志賀鉄雄
- 06.02 [鷲野谷] ア^バス^ク(1) 横枝に止まるも直ぐ飛び立つ 志賀鉄雄
- 06.03 [片山新田] 冪^ウ(1) ホバリング 志賀鉄雄
- 06.03 [染井入新田] 冪^キ(1) 稲田から声 志賀鉄雄
- 06.04 [高野山] 矣^レ(1) 採食 尾崎清明・平岡考
- 06.04 [泉] 朴柝^ス(1) 声 志賀鉄雄
- 06.04 [大津ヶ丘1丁目] 矣^レ(1) オス。小鳥?を足に給水塔に止まる。 志賀鉄雄
- 06.04 [塚崎] ヤ^ガラ(1) 林から声 志賀鉄雄
- 06.04 [藤ヶ谷] 比^レ々(1) 囀り 志賀鉄雄
- 06.04 [江蔵地] 冪^ウ(1) 河原上空を飛ばす 鈴木静治
- 06.04 [布佐平和台] 朴柝^ス(1) 啼き声が聞こえる 鈴木静治
- 06.04 [高野山] サ^ウヲ^ウ(1) 囀り 平岡考
- 06.05 [手賀沼下沼] ヲ^イ(3) 葦中に入る 志賀鉄雄
- 06.05 [千間橋] 比^レ(1) 田の上空を旋回する 鈴木静治
- 06.05 [つくし野] 朴柝^ス(1) 鳴きながら飛翔 中野久夫
- 06.10 [布瀬] 比^レ々(1) 囀り 志賀鉄雄
- 06.10 [布瀬] サ^ウヲ^ウ(1) 囀り 志賀鉄雄
- 06.10 [布瀬] 朴柝^ス(1) 声 志賀鉄雄
- 06.10 [布瀬] ア^バト(1) 声 志賀鉄雄
- 06.10 [布瀬新田] 比^レ(1) 畦に降りる 志賀鉄雄
- 06.12 [手賀] 比^レ々(1) 囀り 志賀鉄雄
- 06.12 [手賀新田] 比^レ(1) 飛翔 志賀鉄雄
- 06.12 [鷲野谷] 朴柝^ス(1) 声 志賀鉄雄
- 06.13 [片山] サ^ウヲ^ウ(1) 囀り 志賀鉄雄
- 06.13 [藤ヶ谷新田] 朴柝^ス(1) 声 志賀鉄雄
- 06.13 [浦部] サ^バ(1) 電柱より森の木
の枝に飛ばす 鈴木静治
- 06.13 [浦部] 比^レ(1) 田、林の上を飛ばす 鈴木静治
- 06.13 [浦部] 冪^ウゲ^ンボ^ウ(1) 森の上飛ばす 鈴木静治
- 06.13 [布佐平和台] 冪^リ(1) 調整池の中を鳴き歩きまわる 鈴木静治
- 06.16 [曙橋] 比^レ(1) 飛翔 志賀鉄雄
- 06.18 [東中新宿] 朴柝^ス(1) 4:25、鳴きながら通過 飯泉仁・久美子
- 06.19 [弁天下] 比^レ(1) 飛翔 中野久夫
- 06.19 [弁天下] 冪^ウゲ^ンボ^ウ(1) 柝^{リング} 中野久夫
- 06.20 [泉] サ^バ(1) 電柱上に 志賀鉄雄
- 06.26 [江蔵地] ハ^ブサ(1) 加^ス2羽に追われ小貝川岸の樹に隠れる 鈴木静治
- 06.28 [布瀬新田] ヲ^イ(9) 12:49~

手賀沼学会が開かれました

第6回手賀沼学会大会が7月4日(土)に中央学院大学で開催されました。記念講演「変貌する利根川」、講師 鈴木久仁直氏および特別発表「利根川の河川工事の仕事歌」郷土史研究者、芦原修二氏に盛況でした。

口頭発表として学会会員の「08年秋 大堀川の鮭」、本会、間野会長の「手賀沼の周り、夕力が飛び交う豊かな環境を」ほかポスター展示がありました。(宮下三禮)

会員便り (ab-yacho より)

【手賀沼】

今日、雨の中、久しぶりに手賀沼の田んぼを回ってみました。コジュリンの声を聞き、あたりを見渡すと、頭の黒いコジュリンが畦の中ほどで囀っていました。

(中西榮子 07/02)

【北新田】

一昨日北新田に行く途中の我孫子市弁天下で、ヨシゴイが葦原から飛び立ち水田に降りるのを見ました。車の往来もあり農作業している人もいるところに、ヨシゴイが飛んで来るとは思いもよりませんでした。

(北原建郎 07/03)

今日の北新田の観察結果です。

- ・オオヨシキリの囀り、河川敷のヨシ原では全く聞かれなくなり、静かになりました。飛び地の休耕田ではまだ4羽囀っていましたが、あと2・3日で聞かれなくなると思います。
- ・カッコウの鳴き声は6日以降聞かれなくなりましたが、ホトトギスは昨日も鳴いていました。
- ・最近、2号排水路のヨシ・マコモ・ヒメガマの中で、風切羽が抜け落ちて飛べなくなった換羽中のカルガモが集まって群れているのが見られるようになりました。
- ・昨日、越流堤近くの2号排水路横の草地で、コヨシキリが盛んに囀っていましたが、今日はいませんでした。

(中野久夫 07/16)

【ゆうゆう公園】 オオヨシキリとコヨシキリ

昨日、ゆうゆう公園自然観察ゾーンに行ってみました。今はオオヨシキリとヒバリの天国ですがオオヨシキリはほとんど上のほうでは囀らず姿が見えないところにいました。コヨシキリは2箇所で見ることができましたがいつものポイントではなく奥の方の見えづらいところで囀っていました。

(諏訪哲夫 07/06)

生息環境が似ているオオヨシキリとコヨシキリは、実際、近い場所で囀っている事をよく観察します。その場合、コヨシキリの囀りの中に、オオヨシキリの典型的な囀りの部分を取り込んでいる事がよくあるため、暫く注意深く聞き続けないと、どちらなのか戸惑う、という経験をしたことがあります。コヨシキリのほうが高周波で、金属的な囀りをするといわれているようです。

(田中功 07/06)

私が聞いている範囲ではオオヨシキリの大合唱の中でもコヨシキリは「草原のジャズシ

ンガー」と言われる美声で囀ってくれるので良くわかりますし、私はコヨシキリの囀りの中にオオヨシキリの鳴き声を取り入れた部分があることには気がついていません。

(諏訪哲夫 07/06)

もう二十年以上の話です。そのころ初夏になれば信濃川の河原に行きます。オオオヨシキリもコヨシキリも来ています。新潟県はコヨシキリが多かったです。そのころオオオヨシキリがコヨシキリを追い回します。コヨシキリは葦の茂った間を巧みに飛んで逃げます。オオオヨシキリは翼が引っかかって追いきれません。そのようにして縄張りが決まります。笹川に行くとオオセッカをさがします。その秘訣はオオオヨシキリのいない場所です。コヨシキリもオオオヨシキリのいない場所です。

(西巻実 07/06)

【 賀島のアホウドリ 】

山階鳥類研究所では、アホウドリの一層確実な回復のため、小笠原諸島賀島へのアホウドリの再導入を進めており、昨年の 10 羽移送 (10 羽巣立ち) に引き続き、今年 2 月には 15 羽を移送し、研究員らが現地でキャンプしながら飼育した結果、5 月 25 日までに 15 羽すべての巣立ちを迎えることができました。15 羽の内、7 羽には人工衛星対応の発信器を装着しており、6 月 30 日までに最も遠いもので、賀島から約 3200 キロのオホーツク海中央まで達しています。今シーズンの飼育期間中、飼育サイト周辺に、デコイ (実物大のアホウドリの模型)、音声と飼育中のヒナに誘引されたと思われるアホウドリの若鳥が少なくとも 3 羽飛来しました。このうちの 2 羽は、賀島の属島で求愛のダンスをおこなうのが確認されました。若い個体の求愛ダンスは、今後の賀島での番い形成や繁殖に期待を持たせるあかるい徴候です。

(平岡考 07/09)

第 19 回 鳥学講座開催のお知らせ

「ジジロと鳴くメボソムシクイはどこから来るか？」

～ 鳥の系統地理学への招待～

講師：齋藤武馬 (さいとう・たけま) (財) 山階鳥類研究所 自然誌研究室 研究員

日時：平成 21 年 11 月 8 日 (日) 午後 1 時 30 分～3 時 (開場 午後 1 時)

場所：アピスタ (我孫子市生涯学習センター) ホール (定員：120 名)

千葉県我孫子市若松 26-4

参加費：無料 (事前の申込みは要りません)

主催・問い合わせ：我孫子市鳥の博物館 (電話 04-7185-2212)

(財) 山階鳥類研究所 (広報担当 電話 04-7182-1101)

鳥学講座は、第一線で活躍する研究者が研究の最前線を紹介するもので、年に 1 回開催しています。

登山をされる方は夏の本州の針葉樹林帯で、「ゼニトリ、ゼニトリ」というメボソムシクイの声が聞かれることをご存じでしょう。しかし、これとは別に「ジジロ、ジジロ」と鳴くメボソムシクイの声が春の渡りの時期に聞かれることが以前から知られていました。ジジロと鳴くメボソムシクイの正体は何なのか。この謎を解明するために日本各地やロシアのフィールドで調査してきた齋藤武馬研究員が、メボソムシクイという種の成り立ちに、DNA、音声、形態などを通じて迫ります。そのことを通じて、鳥の系統地理学と呼ばれる研究分野の面白さを語ってもらいます。多数の皆さんのご来場をお待ちしています。

* 鳥学講座は「ジャパンバードフェスティバル 2009」(11 月 7 日 (土) 8 日 (日)) にあわ

せて開催します。

ジャパンバードフェスティバルのホームページ <http://www.birdfesta.net>

第 13 回 手賀沼流域フォーラム全体会のお知らせ

主 催：手賀沼流域フォーラム実行委員会

日 時：10月17日（土）10：00～15：00

会 場：千葉県手賀沼親水広場（水の館）3F 研修室

テーマ：「手賀沼に^{いのち}生命のにぎわいを」シンポジウム

コーディネーター：千葉県立中央博物館 副館長 中村俊彦氏

パネラー：千葉県環境センター水質環境研究室長 小倉久子氏

：美手連 手賀沼水生生物研究会代表 鈴木盛智氏

基調報告

：「生物多様性千葉県戦略 - 里沼としての手賀沼 - 」 中村俊彦氏

：「水循環行動計画に基づく協働調査からみえてきたこと」 小倉久子氏

：「2年間の魚類調査活動と外来種問題」 鈴木盛智氏

メールアドレス登録のお願い

ab-yacho にメールアドレスを登録されている方が会員の半数にも至りません。

そこで、現在 Eメールをされていて ab-yacho に参加されていない方に、ぜひ登録をお願い致します。お名前とご住所を下記の管理者宛に Eメールで送ってください。

管理者：佐々木隆

新入会員の紹介

浅野利幸（柏市）、浅野純子（柏市）、澤田冴子（我孫子市）、川越久枝（我孫子市）、金子幸子（我孫子市）、畠中暁美（我孫子市）、上野竹子（我孫子市）

ほーほーどり No.210 （2009年9～10月号）

発 行 2009年9月1日

発行人 間野吉幸

編集人 猪爪敏夫、小玉文夫、佐々木隆、野口紀子、松本勝英、宮下三禮

事務局 染谷迪夫 〒270 1154 我孫子市白山 1 - 9 - 4 Tel: 04 7182 3972

URL <http://abikoyacho.org/>

郵便振替 00140 - 2 - 647587 我孫子野鳥を守る会

会 費 年会費 2,000 円（大学生・高校生 1,000 円、中学生以下 500 円、家族会員 無料）